

《 VII 社会的活動 》

【社会的活動(国際的活動は別項で記述)への取組みについて】

(1)社会的活動への取組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取組む予定かを記述して下さい。

1. 本学の社会活動の理念

本学の前身である、市邨学園短期大学は平成7年、創立30周年を迎えた。その記念事業の一つとして、本学の立地する愛知県犬山市で、公開講座「犬山オープンカレッジ1995」を開催した。これが本学における本格的な社会活動の始まりであった。その後、この公開講座は名古屋経済大学との共催となり、毎年行われている。

この経験を通じて明らかとなったのは、地域住民の生涯学習への意欲の高さ、地域の自治体の生涯学習支援の熱意である。高等教育機関としての短期大学は住民の要求に積極的に応える使命がある、そしてこの使命を果たすには地元の自治体との連携が不可欠である、このことを認識することができた。

また、公開講座を主催する側からすれば、公開講座は、日ごろの教育研究の成果を地域住民に還元する機会であるとともに、日ごろの教育研究の内容について外部評価を受ける機会でもあるということである。

生涯学習の拠点としての短期大学という理念は、以上のような内容において、本学で定着している。

以上の経験をふまえ、本学は、教育理念に次のような文言を載せている。

「生涯学習を志す多様な学生を集め、世代を超えた人々の相互教育の場をつくる。」

また、学科の教育目標にも以下のように述べられている。

「生涯学習のニーズに応えることは短期大学の社会的な責務であって、それは保育の分野においても例外ではないとわたしたちは考えています。現職の教諭・保育士の継続教育だけでなく、一般社会人を対象に広く門戸を開放して学習の機会を提供することもまた重要な課題のひとつです。現在設けられている科目等履修生制度をさらに充実させ、地域とのつながりの中で教育・研究機関としての機能を発揮することを目指します。」(保育科)

「現在、わが国では生涯学習を志す人が増大しています。キャリアデザイン学科は、地域のさまざまな世代の人々に学習機会を提供し、老いも若きも、互いに切磋琢磨して学び合えるよう努めます。」(キャリアデザイン学科)

◆『学生ハンドブック』 参照

2. 今後の予定

本学はその教育理念において「名古屋を中心とした東海地域に根ざす」ことを謳っている。本学の教育研究をいっそう地域に根ざした内容にする努力を積み重ねていきたい。具体的には次の

ことに取り組む。

- (1) 社会人受け入れの強化
- (2) 実社会の経験者の積極的招聘
- (3) 自治体との連携の強化
- (4) 地域との連携、他の教育機関との連携を推進する体制の整備

(2) 社会人受け入れの状況について、生涯学習の観点から短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述して下さい。

上述のように、短期大学は生涯学習の拠点であるにとらえるからには、教職員一人ひとりが自覚を高めるとともに、短期大学が組織として、生涯学習の拠点となるための態勢を整えることが必要だと考える。

そして、この考えを地域住民にメッセージとして明確に届けることが大切である。そのためには、地元の自治体や町内会、商工団体などとの緊密な連携が必要であり、本学が生涯学習の拠点となっているという認知を受けられるよう、努めねばならないと考える。

(3) 過去3ヶ年(平成17年度～19年度)に短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況を記述して下さい。

1. 学術研究センター主催「犬山オープンカレッジ」

本学の学術研究センター主催による「犬山オープンカレッジ」は13年目を迎え、着実に実績を積み重ねるとともに、市民の認知度も定着してきている。当初より犬山市、犬山市教育委員会、犬山商工会議所の後援を受け、講座の情報は犬山市公報および犬山商工会議所の所報に掲載されている。また、犬山市生涯学習課に聴講者の受付業務を依頼している。

会場は、犬山市の公共施設だけでなく、大学祭の開催日に合わせて本学の教室を活用し、市民に大学の施設の理解をいただく努力をしている。

平成17年度「犬山オープンカレッジ2005」

開催日	タイトル	担当講師
9月24日	この国の「かたち」について	短期大学部 教授 高田 豊實
10月23日	国際通貨のお話	法学部 教授 岩崎 一生
11月26日	宝石をつくる 結晶を育成する方法	経営学部 教授 横山 光伯
12月17日	最近訪れた中国	法学部 助教授 谷川 毅

平成18年度「犬山オープンカレッジ2006」

開催日	タイトル	担当講師
9月30日	まちづくりと地域情報化	経済学部 准教授 岸野 澄子
10月22日	現代に生きるエンゲルスの生命観	法学部 教授 宮田 尚雄
11月25日	ニューな健康スポーツのすすめ	法学部 教授 庄司 節子
12月16日	絵の話	人間生活科学部 教授 小林 修

平成19年度「犬山オープンカレッジ2007」

開催日	タイトル	担当講師
10月21日	地震と地形学	経営学部 教授 日比野 雅敏
11月24日	日本の金融システムの変化について考える	経済学部 教授 野村 重明
12月15日	スポーツの見かた	短期大学部 准教授 寺田 泰人

2、名古屋経済大学情報センター主催 連続講演会

連続講演会 18年度 (情報センター主催)

開催日	タイトル	担当講師
10月14日	ネットワーク社会にできること、できないこと	経済学部 教授 木村 隆夫
10月21日	今日における労働の現場	オークマ(株) 顧問 稲垣 義彦 ネッツトヨタ 社長 米重 勝彦
10月28日	海外における労働について	短期大学部 教授 代田 義勝

3. 英語教育センター主催 市民開放講座

平成15年に発足した英語教育センターは、本学教員が講師となって「市民開放講座」を実施している。

平成18年度 市民開放講座 (英語教育センター主催)

開催日	タイトル	担当講師
9月11・12日	西洋の宗教叙事詩で宇宙旅行をしませんか	経済学部 教授 宮川 昇
9月13・14日	18世紀の身体とジェンダーに触れる	法学部 准教授 川津 雅江
9月15・16日	アメリカ黒人奴隷の歴史と文学	短期大学部 准教授 進藤 鈴子

平成19年度 市民開放講座 (英語教育センター主催)

開催日	タイトル	担当講師
9月10・11日	ヨーロッパの叙事詩と『平家物語』	経済学部 教授 宮川 昇
9月12・13日	メディアの挑戦ーアメリカ民主主義	短期大学部 教授 武田 康雄

4. 短期大学部キャリアデザイン学科主催 生涯学習講座

本学キャリアデザイン学科は地域総合科学科として発足した。地域住民の生涯学習要求に応えるため、平成18年度より、春期と秋期において、学内で「生涯学習講座」を開催している

平成18年度 「生涯学習講座」

開催日	タイトル	担当講師
5月13日 20日 27日	現代日本人の起源について	短期大学部 教授 渡邊 道斉
5月13日 20日 27日	この国の「かたち」について	短期大学部 教授 高田 豊實
5月13日 20日 27日	e-Japan から u-Japan	短期大学部 講師 末岡 仁
11月11日 18日 25日	手軽に楽しむろうけつ染め	短期大学部 准教授 光松 佐和子
11月11日 18日 25日	パソコン・メンテナンス	短期大学部 准教授 角谷 新一
11月11日 18日 25日	デジタル塗り絵	短期大学部 教授 水野 晃

平成19年度 「生涯学習講座」

開催日	タイトル	担当講師
5月12日 19日 26日	暮らしの中の民法	短期大学部 准教授 吾妻 民子
5月12日 19日 26日	暮らしの中のリスク	短期大学部 准教授 江本 哲也
11月10日 17日 24日	話し方の極意	短期大学部 副学長 野田 昇司
11月10日 17日 24日	聴く・話す・理解するコミュニケーション	短期大学部 准教授 水口 美和子

(4)過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の短期大学と地域社会(自治体、商工業、教育機関、その他団体等)との交流、連携等の活動について記述して下さい。

1. 愛知県現任保育士指導者養成研修

愛知県の業務委託を受け、「愛知県現任保育士指導者養成研修」を実施するにあたり、平成15年度・16年度の研修を本学にて実施した。教室や図書館等の設備を供するとともに、研修の講師陣に本学の教員が多数加わり、保育士の資質向上に貢献した。また、平成17年度・18年度は、会場は供していないが、本学の教員が引き続き研修の講師を担当している。

期間	コース名	使用設備
平成15年7月1日～10月2日	園長・主任コース	3D1教室、図書館、情報センターなど
平成15年10月14日～11月14日	中堅コース	3D1教室、図書館、情報センターなど
平成16年6月15日～9月15日	園長・主任コース	3D1教室、図書館、情報センターなど

2. 各種委員等の委嘱

本学教員は、愛知県を中心に多くの自治体の審議会委員を委嘱されているほか、自治体が主催する講演会や研究会の講師を委嘱されている。

過去3年間、審議会委員や講師として、本学に委嘱依頼のあった件数及び教員数は67件34名である。そのうち短期大学の教員への委嘱は10件5名である。

No.	委員・講師委嘱	委嘱会議等	氏名
1	全国保育士養成協議会中部ブロックセミナー実行委員会委員	全国保育士養成協議会	関谷みのぶ
2	小牧市高齢者保健福祉計画策定委員会	小牧市介護保険課	関谷みのぶ
3	小牧市民大学こまきみらい塾運営委員会委員	小牧市教育委員会	代田 義勝
4	小牧市男女共同参画審議会委員	小牧市教育委員会	代田 義勝
5	小牧市福祉有償運送運営協議会委員	小牧市介護保険課	代田 義勝
6	全国大学実務教育協会専門委員	短期大学基準協会	武田 康雄
7	評価評議員 実務教育評価委員会専門員	短期大学基準協会	武田 康雄
8	犬山市情報公開審査会委員	犬山市総務課	高田 豊實
9	犬山市個人情報保護審査会委員	犬山市総務課	高田 豊實
10	犬山市次世代育成支援推進協議会	犬山市健康福祉部子ども未来課	船井 廣則

3. 大学施設の開放

(1) 図書館

本学は平成13年4月に図書館学外者閲覧内規を制定し、広く地域の人に開放している。利用できる学外者は「高等学校在学者又は16歳以上の者」としており、利用者を登録の上、「図書館利用証」を発行して利用いただいている。平成13年度からの累積登録者数は、256名（平成19年度新規登録者数は35名）である。19年度の学外者入館者数（延べ）は2,382名であり、多くの人に利用されている。

(2) 体育施設

本学の体育施設のうち、メインアリーナ、野球場、テニスコート、グラウンドを開放している。主に犬山市、小牧市、春日井市の地域スポーツ団体等からの利用申し込みが多く、本学学生の活動に支障のない限り利用いただいている。平成19年度の利用状況

メインアリーナ	24日	野球場	41日
テニスコート	28日	グラウンド	9日

(3) 情報センター

「犬山市子ども大学」の一講座として開講される「子どもパソコン教室」の会場として、情報センターが利用されている。この講座は平成14年度から犬山市教育委員会が企画・実施していた事業が、その後特定非営利法人（NPO法人）「犬山市民活動支援センター（略称：犬山しみんてい）」に委託され今日に至っている。「子どもパソコン教室」の指導は情報センターに係る教員が講師を担当し、小学生の興味・関心のある内容を中心に、子どもたちが学校や家庭ではできない「ホームページづくり」などを指導している。こうした取り組みは受講者にとって体験活動を通して満足感、達成感を味わうことができ、しかも知識や技能が習得できるため好評である。しかし、進行する少子化のためか、あるいは、パソコンが家庭に普及したことによるものか、受講者は減少している。

(4) 教室等の学内設備

名古屋経済大学附属市邨幼稚園と本学幼児教育研究会が共催する「親子ふれあい教室」において、調理科学実験室をクッキング講座の会場として利用している。また、「親子ふれあい教室」を開催し、この地域に一つしかない附属幼稚園の存在を保護者に理解いただいている。当日は「絵本ライブラリ」をも開放し、好評を得ている。

(将来計画)

大学と地域の連携は、今日の大学の果たすべき役割として最重要課題の一つである。この認識を学内の教職員が共有し、本学の物的資源及び人的資源の積極的な提供に向けて取り組んでいかなければならない。これまでも、大学の施設や設備が広く市民に活用され、また、本学の教職員も地域に対してさまざまな貢献をしてきたところであるが、こうした資源提供をより活性化し、地域社会に一層認知されることを目指したいと考える。そのために本学が取り組むべき方策は次のとおりである。

①自治体との協定締結

現在、本学は大学の所在する犬山市及び大口町と協定を締結している。さらに平成20年1月、小牧市、同市商工会議所との産学官連携協定が締結された。こうした近在の自治体と協力関係を結ぶことによって、さまざまな企画や行政課題に大学が参画していくことが重要である。また、市民の利用を増やす方策の一つとして、自治体の広報誌を通じて本学の施設提供を呼びかけることも考えられる。

②情報の集約

本学教員は、愛知県を中心に多くの自治体の審議会委員を委嘱されているほか、自治体が主催する講演会や研究会の講師を委嘱されている。こうした委嘱のケースは、大学側に選出の依頼がある場合と教員個人に直接依頼がある場合とがある。後者の場合は、大学側のみならず教員相互の間でも情報を把握しにくいのが実情である。したがって、社会的活動については大学側が情報を集約できる態勢をとることが喫緊の課題である。また、審議会委員や講座講師について、担当可能な分野、領域等をまとめた「分野・領域別学内リスト（仮称）」を毎年度作成するとともに、自治体側に積極的に提供していくことも有効と考えられる。

③情報の発信

学内や学外に向けて、資源提供に関する情報を積極的に発信していく必要がある。例えば、学内施設が市民にどのように開放されているかについては、必ずしも教員の共通認識とはなっていない。したがって、現在の情報発信の媒体である本学のウェブサイトや広報誌『名経大通信』、『学内報』を中心として、広報活動を積極的に展開する必要がある。

現在は本学の総務部、学務部、図書館等がそれぞれの情報の集約拠点となっているが、情報の集約と発信及び企画を一体的に行う部署を設置することを現在検討中である。

④学生の活動と連動した取り組み

物的資源及び人的資源は、大学主導あるいは教員中心となりがちであるが、学生の活動と連動した資源提供のあり方を検討する必要がある。既に一部の学部では教育活動や学生の部活動と連動させた資源提供が行われている。

こうした学生の教育や自主的な活動など、学生が参画できる形態での資源提供の可能性を学部学科でさぐり、学内外での実践を通して、より一層、市民と学生との交流が推進されることが重

要であると考える。

【学生の社会的活動について】

(1)過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。

学生の地域活動、地域貢献、ボランティア活動などの社会活動に対しては、本学としては積極的な支援を行ってこなかった、というのが実状だった。しかし、地域活動、地域貢献、ボランティア活動などの社会活動は今後ますます需要が高くなると考えられることを見通し、キャリアデザイン学科は平成19年度に「ボランティア活動」を学科科目として開設することにした。

また、平成18年度からは学生顕彰制度で、地域活動やボランティア活動などによって社会に大きな貢献をした者を表彰する、ということも始まっている。例えば平成19年度は、「Meikei Award」のシンボルマークをデザインして、表彰を受けた学生がいる。また同賞はクラブ活動成績優秀者にも贈られ、文化・芸術活動部門ではフラメンコ部を立ち上げた者が、サークル活動部門ではスキー部所属の学生が優れた成績を収め、表彰された。

大学祭を通じた、学生の社会に対する参加活動は、主にゼミ活動を通じて行われてきた。例えば学習成果を発表し、社会にアピールすることは、キャリアデザイン学科ではすべてのゼミで見られ、保育科においても相当数が実施された。また模擬店などへの参加は、キャリアデザイン・保育、両科で盛んに行われた。

さらに、大学祭実行委員会は大学祭の行事を社会にPRする活動拠点となっており、委員となった学生の成長は著しいものがある。しかし、最近では、実行委員会メンバーはおもに学部学生に依存することが多く、短大生の参加を促す努力が緊要である。また学生自治会執行委員会は、大学祭において献血活動や移動動物園の誘致・運営などを通じて、積極的に地域住民との交流を図っている。また執行委員らは、学園がある名鉄田縣神社前駅の清掃活動も実施している。しかし、学生自治会の役員も、自発的に集まるといことは困難で、教員の支援によるところが大きい。

すでに《Ⅱ 教育の内容》の特記事項において触れているが、保育科のワークショップ型ゼミナール「総合演習Ⅱ」の主な内容である「いちむらっこまつり」は、大学に併設されている附属幼稚園において実施されるものである。この「まつり」の準備期間や当日の発表をとおして、自らが学習した環境問題・生命倫理・高齢化社会など、地球規模の国際的問題や焦眉の国内的な問題について、その内容を3～6歳の園児たちに理解できるよう、わかりやすく伝える「指導法」を実践・検証している。こうした学生たちの発表を見た当日、園児たちが帰宅後に家族とそうしたテーマについて話題にしていることが保護者から報告されている。結果的に学生たちの活動は、園児たちを通してその保護者たちにも環境問題などについて啓発する機会を提供しているとも言えよう。

クラブ・サークル活動では、エイサー部(沖縄舞踊)をはじめ数多くの団体が活動し、社会に参加・貢献している。なかでも、本学キャリアデザイン学科の放送関連の科目と連携した、放送クラブが平成18年に発足し、活動を展開している。放送クラブは学内でミニFM放送を行うとと

もに、愛知県犬山市に拠点を置く愛知北エフエム放送に番組を配信している。これは、キャリアデザイン学科の教員・学生と放送クラブとの協働の成果である。

大学短大共通のサークル児童文化研究会「わらべ」は、丹羽郡大口町の児童センターで毎年開催される「センター祭」で手遊びやペープサート劇を発表し、児童センターに集まる幼児・児童の人気を博している。また、サークルのメンバー以外にも祭り当日の雑務をするお手伝いとして、通常5～6名のボランティアの要請が児童センターから寄せられるので、教員が仲立ちをして学生を募集し、派遣している。

なお、この種の例はまだまだあると思うのだが、学生委員会や学生部がその実体を充分把握しきれていないのが実状である。今後、学生の活動について、より広く目が届くよう心がけたい。

(2)短期大学では学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。

本学の卒業生は、主に名古屋を中心とした東海地域に就職する。したがって、この地域の実情を熟知すること、そして地域住民とともにこの地域の活性化のために努力しなければならないと考える。

そのため在学中からそうした問題意識を持って学習することが必要である。保育科とキャリアデザイン学科とはその性格を異にするが、それぞれの特徴を生かした地域交流、地域貢献を教育プログラムの中にきちんと位置づけて取り組まねばならないと考えている。

ボランティア活動に参加した学生たちの感想からは、地域に貢献したという満足感を得ることはもちろん、活動を通して自らを成長させることができたという達成感・充実感も得ていることが知れる。

【国際交流・協力への取組みについて】

(1)過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の学生の海外教育機関等への派遣(留学〈長期・短期〉を含む)の状況を記述して下さい。

キャリアデザイン学科の学科科目として海外語学研修がある。内容は全期間ホームステイしながら、2週間カナダの語学学校にて語学研修を受けるものである。開放科目であり、保育科並びに名古屋経済大学の学生も参加できる体制がとられている。

平成17年度以降3年間の海外語学研修の実施状況は以下の表の通りである。研修実施語学学校が毎年異なっているが、これは学生派遣先として提携している Langara College の受け入れ条件が学生数8名以上の参加であることによる。平成17,18年については参加学生が少数であったため、旅行代理店経由で別の受け入れ先を確保し、実施した。

なお、事前の準備説明会への出席、現地での語学研修での修了証取得、帰国後のレポート提出によって単位を認定している。

平成17年～平成19年 海外語学研修記録				
年度	参加学生数 (名経大生数)	実施期間	語学研修校	研修地、国
平成17年	4 (0)	8/21-9/7	PAN PACIFIC INT'L ENGLISH COLLEGE	VICTORIA, CANADA
平成18年	5 (4)	8/19-9/3	CANADIAN COLLEGE of ENGLISH LANGUAGE (CCEL)	VANCOUVER, CANADA
平成19年	9 (4)	8/19-9/2	LANGARA COLLEGE VANCOUVER	VANCOUVER, CANADA

(2) 過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の当該短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

とくになし。

(3) 過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述して下さい。

本学は「専任教員在外研究及び内地研究に関する内規」に基づき、教員の研究活動を支援している。

◆名古屋経済大学大学院・名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部
専任教員在外研究及び国内研究に関する内規 参照

本学教員の留学、海外派遣、国際会議等の出席状況

年度	教員名	出張国	研究内容	内容
16年度	光松佐和子	米 国	衣服の温熱生理学的快適性に関する研究	B
18年度	後藤 基	中 国	雲南省における経済、社会発展と地域構造の変容	B
19年度	船井 廣則	スペイン	第1回日本・バスク伝統遊技・スポーツ国際セミナー	A

注 A : 国際会議における研究発表 B : 外国における現地調査
C : 国際共同研究 D : その他

【特記事項について】

(1)この《Ⅶ社会的活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育等、社会的活動について努力していることがあれば記述して下さい。

1. 愛知北エフエム放送への番組の配信

すでに述べたように、平成18年より本学キャリアデザイン学科は放送部（学生サークル）と協同で愛知北エフエム放送に番組「こんにちは、名経大です」を配信している。また平成19年からはゼミナールのワークショップ活動の成果を、各種メディアを通じて学内外に発信している。それは新聞、ミニコミ誌、ホームページなどを含むが、FM放送への番組の配信はすべてのゼミナールが担当しており、学科挙げての社会活動となっている。これは平成20年度も継続される。

(2)特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

とくになし。